

多様な担い手の連携・協働によるCSV(Creating Shared Value)創出プロジェクト 【北陸ブロック 新潟県村上市 特定非営利活動法人 都岐沙羅パートナーズセンター】

地域課題

- 住民との「協働」によるまちづくりの転換が急務
- 地域・分野を越えた横断的な連携・協働の促進が重要
- 少子高齢化の進展による諸課題への取り組みがあまり進んでいない

事業目的

NPO・民間企業同士の連携・協働を促し、新たな地域づくり活動を生み出す仕組みを、CSVという視点から再構築する。

事業概要

事業1. NPOと民間企業の連携・協働事例実態調査の実施及びその情報発信

①市民団体・NPOへのアンケート調査及びその情報発信

まずはNPO側からの情報開示が重要。団体が提供できること・求めていることなどをアンケート調査により把握し、パネル展やWEB上でのデータベース公開を実施。

②NPOと企業の協働事例調査及び事例集の作成

お互いにWIN-WINとなっているNPOと企業の協働事例を調査し、その詳細を掲載した事例集を作成して、CSVやNPOと企業の協働を身近に感じてもらうことで普及啓発。

事業2. 新しい市民連携を促すマッチングイベントの実施及び支援メニューの整備

①マッチングを生み出すためのプログラム内容の検証実験

ワールドカフェをアレンジしたプログラムでプレイベントを開催し、その有効性を検証。

②マッチングイベントの本格実施

・①の結果を踏まえてマッチングイベントを開催し、新たな協働事業の種・芽を創出。

③CSVを育成するための支援メニューの整備

【実施主体】

特定非営利活動法人 都岐沙羅パートナーズセンター

- ・NPO、市民組織、行政機関の情報、ネットワーク
- ・ワークショップ企画運営ノウハウ
- ・多様な主体の連携、協働に関するコーディネートノウハウ

両者が協働して事業を推進

【協力組織】

一般社団法人いわふね青年会議所

- ・多様な企業(特に若手経営者)の情報、ネットワーク
- ・研修で培ったファシリテーションスキル

必要に応じて行政・商工組織・金融機関・ボランティア組織等へ参加・協力を呼びかけていく。

事業成果

NPOと企業の新しい協働の形(=CSV)を浸透させるための情報共有ツール(まちづくり団体データベースの公開/事例集「協働の本」の作成)と、マッチングのための仕掛け(「まちカフェ」プログラム)が構築できた。マッチングイベントによって、新たな連携企画2件(地元農家と酒造会社の連携による新しい商品づくり/今まで無かった地域オリジナルの駅弁開発)と新たな連携アイデア2件(量販店や飲食店にまちづくり・情報発信拠点を設置/生産者と飲食店のコラボを生み出す企画会議の開催)が生まれ、新たな協働の種・芽が具体的に創出された。

中間支援における工夫や苦労した点

1) 中間支援において特に工夫した点

- CSVに対する地域側の理解の度合いを測り、その上でプロセスを組んだ。
→地域側の理解度を読み誤ると、中間支援組織の独り相撲になってしまう。
- NPO及び企業の潜在ニーズのポイントを的確につかむことを意識した。
→アンケートやヒアリングだけでは潜在的なニーズまでは掴めない。実験の場(マッチングイベントの試行)で検証することで、それらは浮かび上がってくる。

2) 中間支援にあたり苦労した点、うまくいかなかった点

- CSVという考え方を理解してもらうためのアプローチ方法に大変苦心した。
→コトを起こす前の「共通認識の醸成」が非常に重要。ここが不十分だと、共感は得られず、協力を求めても空振りに終わる。
- 情報を「入手する」ことはできても、「公開する」となると違った問題が発生する。
→NPOと企業の協働事例調査では結果の公開を前提としたことから、ヒアリング相手が非常に慎重な姿勢となり、情報収集すらままならないという事態が発生する。

3) 団体の成長につながった点

- 地元企業とのネットワークを強化するためのきっかけができた。→これまで不十分だった民間企業とのパイプが太くなった。
- マッチング成果を生み出すためのファシリテーションノウハウが蓄積された。
→「意見を引き出す」ことに加え「マッチング成果を生み出す」ためのファシリテーションスキルを磨くことも重要なポイント。
- NPO・地域づくり分野のニーズを企業側に伝えるために多彩なチャンネルを整えていくという指針ができた。
→これからの中間支援活動では、NPOや地域からのニーズをしっかりと汲み取り、それを企業側へ「具体的な提案」と共に伝え、アクションを生み出すという取り組みが非常に重要。また、「企業側に伝える」という機会・場の種類・回数増も重要なポイントである。

4) 他の主体との連携の効果

- 当団体に不足している地元企業とのネットワークを十分に補うことができた。
→中間支援組織に不足していた企業とのネットワークを、協力団体(いわふね青年会議所)が十分に補い、結果として幅広い主体から参加者が集まるマッチングイベントが開催できたことで、参加者側も「まちカフェ」に対する期待がかなり大きくなった。
- 地域づくり活動団体パネル展やデータベース作成が実現できた。→これまでなかなか手が回らなかった地域内でのNPO情報の一元化が実現できた。



今後の予定

- マッチングイベントの定期開催
- 中間支援組織による連携企画実現のための相談会の開催及び連携事業コーディネート・フォローアップの実施
- 民民連携企画の実現に向けた官民による支援プラットフォームの整備